

名称	型式	価格
速度検出装置試験装置	FJE-722AST-2	¥18,000,000

※車種ごとに詳細が分かりますので、JR営業所まで御問合わせください。

## 製品概要

FJE-722AST 速度検出装置試験装置は、今後配置される全ての車両の速度検出装置（SRD）の機能試験を行なうことができます。新車両を追加・変更する場合は、スケジュールファイルの変更と、場合により発電機等価信号の追加・交換で全ての車両の試験に対応できます。

発電機等価信号は、新車両の速度発電機に応じてFAC系・AG20系・AG30系・AG44・AG46・AG48・WAG49系等必要な発電機等価信号発生部をそれぞれ設置します。

スケジュールファイルでは、新車両を登録する事により、動作確認・データ計測遅延時間計測・擬似速度入力等の試験項目を試験機種選定により設定選択し、試験ファイルを簡易に作成する事が出来ます。

そのため、車両が変わっても試験装置を改修する事なく迅速に対応する事が出来ます。

本試験装置は、今までの車両対応技術を引き継ぎ、更に制御コンピュータ部にWindowsPCを使用し、Windows対応ソフトで構成されています。

## 製品仕様

### 1. 発電機等価信号

車種	周波数	電圧	位相角	
AG20 (120km/h, 820mm 500Ω負荷にて)	A・B, C・D巻線	1164Hz	11.5V±20% 連続可変	90° 前進・後進切換付
	E・F巻線	1164Hz	37.0V±20% 連続可変	—
AG46 (150km/h, 820mm 2.2kΩ負荷にて)	A・B巻線	970.5Hz	16V±20% 連続可変	90° 前進・後進切換付
	C・D巻線	970.5Hz	16V±20% 連続可変	—
AG34・AG35・AG36・AG44 (150km/h, 820mm2.2kΩ負荷にて)	970.5Hz	16V±20% 連続可変	—	
AG48・WAG49 (150km/h, 820mm, 2.2kΩ負荷にて)	1164.5Hz	16V±20% 連続可変	—	
FAC (120km/h, 860mm)	24.5Hz	13V±20% 連続可変	—	

### 2. 処理部

#### 1) 主処理部

- ①CPU INTEL CORE 2 DUO (2.53Ghz)
- ②メモリ 2GB
- ③HDD 80GB
- ④OS WINDOWS
- ⑤ディスプレイ 17インチ

#### 2) 処理部

- ①拡張ユニット PCIバスフルサイズ13スロット
- ②デジタル入力 PCI-2130CM
- ③デジタル出力 PCI-2430C
- ④アナログ入力 PCI-3133
- ⑤アナログ出力 PCI-3345A

#### 3) プリンター部

- ①タイプ レーザープリンター A4モノクロ
- ②プリント方式 半導体レーザー + 乾式電子写真方式
- ③プリント解像度 2400dpi相当

#### 4) 電圧測定

- ①測定範囲 DC000.0V-199.9V
- ②分解能 100mV

#### 5) 周波数計測

- ①測定範囲 0000-1999Hz
- ②分解能 ±1カウント、±基準時間確度、±トリガ誤差

#### 6) 電流計測

- ①測定範囲 0.000A-1.999A
- ②分解能 1mA

#### 7) 抵抗測定

- ①測定範囲 00.00Ω-10.00Ω
- ②分解能 10mΩ

#### 8) 速度測定

- ①測定範囲 000.0km/h-199.9 km/h
- ②分解能 ±1カウント、±基準時間確度、±トリガ誤差

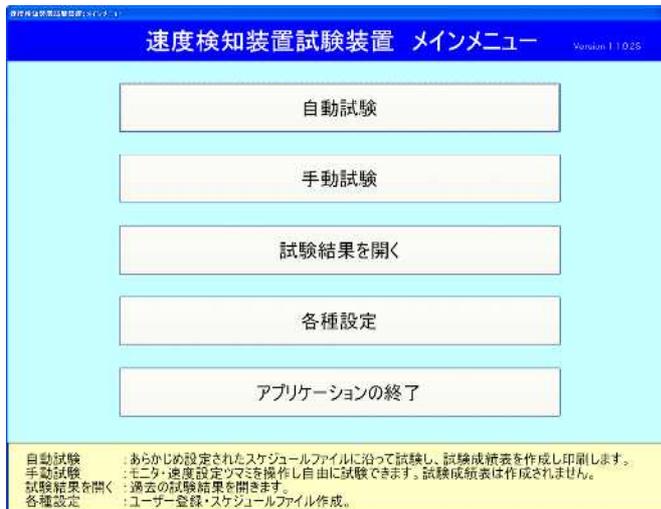
#### 9) 時間測定

- ①測定範囲 0.000S-9.999S
- ②分解能 ±1カウント、±基準時間確度、±トリガ誤差

#### 10) 電圧出力 (SRD用電源)

- ①測定範囲 DC70V-110V
- ②分解能 ±0.3%

## ソフト画面



## 試験

### 1. SRD試験

FJE-722AST型 速度検知装置試験装置はECDCに取り付けられている速度検出装置（SRD）の機能試験・試験精度等を車両を走行させる事なく高精度に測定出来る試験機です。速度検出装置（SRD）は、戸締保安・EB装置・増圧回路・ATC等、検出速度に応じて種々な目的で使用されていますが、本装置は新世代のEB・TE・SRD装置にも充分対応出来るように考慮された設計となっております。

### 2. EB・TE・SRD試験

SRDとEB・TE機能が一緒になったEB・TE・SRD装置は、EB機能を試験するための各種IOが付いていないため、今までのようなEB機能試験ができませんでした。そこで、この製品は速度を自動制御することにより演算で、下記、項目を試験することができます。

1. 動作速度
2. 動作速度マイナス3Km/h以下で釈放

